

沖縄における

# 自己破産の 実態

沖縄県司法書士

自己破産研究会

## 目 次

1. はじめに	1
2. 沖縄の自己破産の実態	5
3. 自己破産——実態を追う (沖縄タイムス社取材班)	13
4. 資 料 (新聞報道から)	31
5. おわりに	43

## はじめに

### 激増する自己破産

沖縄県下における「自己破産」の件数は、1994年の1年間で四百数十件となり過去最高件数に達した。沖縄県司法書士会は、去年10月の記者会見で「年間四百件に迫る勢いである」と警鐘を鳴らしたが、その予想をも大幅に上回ってしまう激増ぶりである。

県下の破産件数が激増した要因は種々指摘することができよう。その一因として、県司法書士会の「沖縄の自己破産の実態」報告の記者会見や多重債務者相談会、これを機会としたマスコミ報道が大きな影響を与えていた事は明らかである。一連の取り組みと報道は、深刻な事態に直面しながらも解決の道を見出しえなかった多重債務者やまわりの親族等々を激励し、問題の解決にむけた一歩を踏み出させる役割を果たしたと思う。つめかける多重債務者等の相談者で、司法書士会や各会員事務所がパニック状態になったとも言われている。沖縄県下における多重債務者の実態が深刻であり、かつ、問題の解決にむけた法律実務家集団等の取り組みが如何に不十分であったかを示した出来事でもあった。記者会見以降、各司法書士事務所で多重債務者と手を携えての具体的な対策が打たれはじめている。11月から各事務所での破産申立、調停の申立が急増し、現在も続いている。

本小冊子は、これら一連の記者会見や相談会、マスコミ報道等を記録し、今後の多重債務者問題の解決に向けた取り組みの参考に供することが目的である。言わば、司法書士等のサラ金問題に取り組む側のための記録だが、多重債務をかかえ悩んでいる皆さんの参考にもなると確信する。

## 記者会見と相談会

1994年10月、沖縄県司法書士会は県会会員の取扱った自己破産申立の事例を分析し、「沖縄の自己破産の実態」を記者会見で発表した。

間近に迫った相談会に向けて、取り急ぎ県会会員の取扱った59件の破産宣告申立書をまとめて分析したものである。時間の制約あって、一部の会員の取扱事例でしかなく、充分な分析とは言えないかもしれない。しかし、こうした実態調査は、全国的にも殆ど例がなく、県下のマスコミや行政機関だけでなく、法律新聞に紹介される等全国的にも注目された。

特に、多重債務に至る原因が、言われるようにギャンブル、遊行費等の不眞面目なものではなく、生活費を補うための借入れが主であること。沖縄型の助け合い社会が、多重債務者のまわりに多くの連帯保証人、カード名義人等の破産予備群を生み出している深刻な実態を明らかにしたことは注目される点である。

県司法書士会は、同記者会見に引き続いで10月29日、30日の両日、電話と面接での「多重債務者相談会」を開催した。この相談会には借金苦で悩む260余人の県民が押しかけている。相談会後も、県司法書士会が毎週開催している「県民法律相談センター」に相談者が殺到した。11月は、通常1人の相談員を5、6人に増員して対処したが、殺到する相談者の全てに応えることはできなかったという。これら一連の相談会に訪れた相談者はのべ人数で350人を超えており、県下における多重債務者の問題が深刻な事態であることを改めて示している。相談会等の内容等については、別途まとめた報告があろうが、本冊子では県司法書士会の許しを得て記者会見での報告とコメントを収録した。

## マスコミの報道

県司法書士会の記者会見や相談会の内容は、ラジオ、テレビ、新聞等の県下の全てのマスコミでかってない規模で取り上げられ報道された。記者会見の内容がその日のラジオで報道されたのをはじめとして、相談会の模様等もテレビニュースでも繰り返して報道された。NHKや民報テレビの報道に破産者が登場して窮状を訴えたのも沖縄では初めてのことである。

一連の報道は、破産手続きに追い込まれている多重債務者の実態を浮きぼりにし、「安易に借りて安易に破産する」等の債務者への安直な非難が正しくない事を知らせる機会となった。その意味では、借金取立に追われ続け、社会的に孤立させられている債務者と身内の方々を激励するものである。報道に接して、「恥ずかしくて誰にも相談できずに悩んでいた」という債務者や家族の方々からの数多くの相談が寄せられている。

同時に、県民の誰もが破綻におちいる可能性があるカード社会問題への警鐘を鳴らした役割も大きい。一連の報道を機会に、まだ少ない事例ではあるが、企業家団体や企業、学校等で同問題についての講演会等が企画されはじめている。

特に、沖縄タイムス社「自己破産取材班」の独自取材に基づく連載「自己破産 実態を追う」は大好評であった。破産の道を選択せざるを得なかった債務者や家族に直接取材を行い、破産に至った経緯を明らかにし、取立てに追われ苦悩を重ねている債務者の姿を描きだしている。取材班の精力的な仕事を記録として留めるためにも、許しを得て本冊子に全文を収録する。担当記者の皆さんのご奮闘に心から感謝を申し上げる。

## これから

自己破産問題が県下の社会問題として連日報道されている最中、ある本土大手サラ金の職員が当会会員に語った。「自己破産は痛くもかゆくもない。今でも毎月250名を超える新規カードの申込みがある」と。「ご利用額1000億円突破記念」キャンペーン等のサラ金各社の新聞広告、折込チラシ、テレビコマーシャルも巷にあふれている。

沖縄は、企業の倒産率でここ10年以上にわたり全国ワースト1位である。失業率、離婚率、母子（父子）家庭率もワースト1位である。言わば自己破産者が多発する社会的な土壤が充分すぎる社会なのである。

その一方で、相互扶助の精神＝ユイマールの心も全国1位であろう。この助け合いの心が誤って発揮された場合、家族・親戚・友人等が連帯保証人やカードの名義貸しとなって多重債務者の群れに陥っていく。言わば、サラ金にとって全国どこよりも暴利をあげやすい社会でもある。

巨額の資本力を持つサラ金業者の前に、一人一人の債務者はあまりにも無力である。しかも、社会的に孤立化されており、援助を求める術も無い状態に放置されてきた。簡易裁判所の法廷を傍聴すれば誰の目にも明らかである。連日、サラ金業者の一方的な主張だけでの「判決」や「和解調書」が量産されており、債務者は欠席するか、法廷で立ちすくんでいる。

県司法書士会の相談会には、当会（司法書士自己破産研究会）会員も含めて40人近い会員が相談員等として奮闘した。救済の実務に取り組む司法書士も増えてきている。この輪がさらに大きく広がることを多くの県民が期待している。この冊子が少しでも役にたつことを願う。

# **沖縄の自己破産の実態**

**— 沖縄県司法書士会の記者会見 —**

# 沖縄の自己破産の実態（コメント）

平成6年10月

沖縄県司法書士会 相談会実行委員会

## 1、自己破産の急増（那覇地裁）

平成3年 総件数	72件	参	3年10月時点	38件
平成4年 総件数	303件		4年 8月時点	113件
平成5年 総件数	329件		5年 9月時点	128件
平成6年 総件数	件	考	6年10月時点	188件

表の左側は、各年の那覇地裁（沖縄）全体での破産申立総件数であり、右側は那覇地裁本庁のみの年度途中の申立件数を示す。平成6年は前年と比べても、10月時点です既に30%ほど増加しており、年間で400件に迫る勢いであることがわかる。

### （1）民事調停事件の推移（申立件数）

平成5年年間 民事一般調停 1089件

平成6年9月30日現在 民事一般調停 1011件

（前年同月比 プラス240件。31%の増加である）

注意 サラ金事件での調停は、民事一般調停に含まれており、その殆どがサラ金調停事件である。

### （2）本人訴訟の推移（那覇簡裁）

平成4年訴訟件数 1405件 内本人訴訟 1215件

注意 簡裁の訴訟事件の殆どは同じくサラ金事件である。その他に数倍の支払命令がある。

## 2、取扱事件から特徴的な点（別紙分析表参照）

### （1）男女の別

女性が圧倒的である。特に、離婚等が原因の母子家庭で、子供を抱て生活費を補うために借金に手をだしてしまうケースが目立つ傾向にある。さらに、生活を支えるためにスナックやブティック等の事業を始め、借財に走り多重債務に陥る例が多い。

### （2）年令の別

世間に言われるように、若年層ではなく、30代後半から40年代の中堅世代が多い。主婦が生活費を補うために借入れに走ってしまい、パート等で返済を続けるが破綻してしまう例が目立つ。

### （3）借入件数と借入総額

平均的に、17件から総額1200万円の借金となる。全国平均が約400万円台と言われると比べて著しく高額である。

理由＝家族、親族、友人関係等の横のつながりが強く、破産に至るまでに債務者を支えていることが負債総額を膨らませている原因と考えられる。

### （4）借金の理由＝きっかけ

生活費の補充が47%と圧倒的である。他に、事業の失敗が32%あるが、小さなスナック等の零細業種でしかなく、生活費の補充と同じような理由である。また、家族等の横のつながりが強いことを反映して保証人・名義貸しから破産に至る例も多い。

### （5）破産者の主な職業と収入

自営業が最多であるが、小さなスナック、ブティック、美容室等の零細経営である。会社員も不安定な民間職場が多い。無職の主婦や生活保護受給者も少なくない。

#### (6) 破産時の主な収入

破産時の収入はゼロが圧倒的であり、本人若しくは家族の病気、離婚等で生活費に追われて借金に走る=思わず手軽に借りられる所に駆け込んでしまいサラ金地獄に陥っている。

10数万円の収入があるケースでは給与の差押えを受けていたり、生活保護所帯では、強要されて生活保護費からの弁済を続けていた例もある。

#### (7) 家族ぐるみの破産・調停が少なくない。

夫婦がともに破産申立をしたケースが6夫婦あり、その中には子供達が同じく破産申立をしたり、調停をした例もある。夫婦の一方が事業や生活費補充で借金を繰り返し、本人の名義で借りられなくなつて配偶者や子供の名義でカードを作るケースが目立つ。

友人間の連帯保証、スナック経営者やホステス間で連帯保証人になりあうために共に破産に至るケースも少くない。

#### (8) 日掛け業者と不法な取立てや家庭の崩壊

借入れの増大の結果、サラ金等からの借入れが不能となった債務者がより高金利の日掛け業者に走る傾向あり。最も、自ら走るのではなく、業者から「借りて返済せよ」と迫られ、紹介されて借りてしまうケースが殆どである。日掛け業者は高金利が「許容」されている反面、貸付対象者が限られているが、これに反する貸付けが多い。

高金利な貸付けだけに、未成年者に親の借金を支払う旨の念書を書かせたり、売春バーへ行くことを強要する例、事務所に連れ込み暴力を振るう等の不法悪質な取立行為も少くない。

また、借金が原因で離婚・別居したケースも18%もあり、不当な取立てが家庭の崩壊につながっていることがわかる。

### 3、司法書士の取り組み

破産予備群ともいえる調停事件の増大からしても、多重債務者の問題は放置できない事態になっている。非常事態宣言を宣すべきと言っても過言ではなかろう。

特に、沖縄の美風ともいえる相互扶助のゆえに、1人の債務者のまわりに多くの名義貸しをした者、連帯保証人となった者が存在する。これらの支えあいが債務者の破綻を社会の表面に現れにくくしてきた。ところが、既に家族・親族・友人・知人等の支えあいでは底いきれない事態となっているのが現状である。だけに、家族や連帯保証人の破綻＝破産も噴出してきているのではないか。沖縄における破産申立は相互扶助社会の反映として今後急激に増加することが予想される。

一方、弁護士会、司法書士会、行政等の奮闘で、債務者の相談窓口は増えてはきた。しかし、相談窓口を訪ねる者の依頼に応えて破産手続きなり、調停手続き等を実際に手伝う法律実務者は圧倒的に不足しているのが現状である。その結果、相談窓口のたらい回しにあい、悩みは聞くが解決はしてくれない、解決を頼むにも多額の費用を要して頼めないと債務者の声を真剣に受け止めることが求められる。

市民の最も身近にいる法律実務家としての司法書士職能が、社会的弱者のこれらの声に応えられる存在になることが求められていることを痛感し、本調査分析の結果を踏まえて「多重債務者相談会」を企画・実施する。

## 取扱自己破産者の分析

### 1. 年代別・男女別

年 齢	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合 計	割 合
男	3	4	4	2	5	0	18件	30%
女	6	6	13	11	3	2	41件	70%
合 計	9	10	17	13	8	2	59件	
割 合	15%	16%	28%	22%	13%	3%		

注意 平均年令 45歳（最年長 71歳・最年少 23歳）

### 2. 借入件数（債権者数）

借入件数	件 数	割 合	借入件数	件 数	割 合
3件未満	0件	0%	15~17件	8件	13%
3~5件	3件	8%	18~20	4件	6%
6~8	8件	13%	21~25	6件	10%
9~11	15件	25%	26件以上	8件	13%
12~14	8件	13%			

平均借入件数 17件

最高借入件数 76件（ブティック経営）、スナック等

最少借入件数 4件（生活保護所帯）

### 3. 債務総額（破産申立時）

債務総額	件数	割合	債務総額	件数	割合
0万～ 100万		%	1,501万～ 2,000万	3	5%
101万～ 200万	4	6%	2,001万～ 2,500万	2	3%
201万～ 300万	5	8%	2,501万～ 3,000万	3	5%
301万～ 400万	7	11%	3,001万～ 3,500万		%
401万～ 500万	10	16%	3,501万～ 4,000万	3	5%
501万～ 700万	8	13%	4,001万～ 4,500万		%
701万～ 1,000万	5	8%	7,001万～ 7,500万	1	1%
1,001万～ 1,500万	7	11%	8,501万以上	1	1%

最高負債例 約8,700万円=スナック経営、借金の相続。

最少負債例 134万円=母子家庭で子供2人。生活費補填

平均負債額 1,221万円

### 4. 借金の理由（複数）

理 由	件 数	割 合	理 由	件 数	割 合
生活費	28件	47%	消費財の購入	0件	0%
事業資金	19件	32%	保証人名義貸	11件	18%
ギャンブル	6件	10%	その他	5件	8%

その他=宗教の壱購入、仕事上の立替、住宅ローン等

## 5. 職業（申立前の主な職業）

職業	件数	割合	職業	件数	割合
自営業	20件	33%	パート	3件	5%
会社員	17件	28%	公務員	0件	0%
無職（主婦）	12件	20%	自由業	0件	0%
水商売勤務	7件	11%	その他	0件	0%

注意　自営業者は、スナック、喫茶店、ブティック、薬店、美容室等であるが、何れも従業員がいないか數名までの零細業者である。  
水商売は、スナック、バー等の従業員。

## 6. 収入金額（破産申立時）

金額（万）	人 数	割 合	金額（万）	人 数	割 合
0	28人	47%	11～15	8人	13%
1～5	1人	1%	16～18	6人	10%
6～8	5人	8%	19～20	1人	1%
9～10	7人	11%	21～25	3人	5%

注意　破産宣告申立を準備し、提出する時点の収入金額である。倒産や退職等で、収入の無い債務者が殆どで、収入ある人の平均年数月収も12万8千円。  
20万円余の収入がある債務者でも、月弁済額は収入の数倍にも達している。

## 7. その他

### 1. 借金のため離婚、別居をした人 11人 (18%)

配偶者に内緒の借金を抱えて、取立てに追われて明らかになり離婚に至るケースが少なくない。特に、主婦が生活費を補うために借り入れ、パート等で返済を続けるが破綻してしまい、別居離婚に至っている。

又、母子家庭で生活費を補うための借り入れも目立つ。

### 2. 生活保護受給者 8人 (13%)

生活苦からの借金が多いことの反映で生活保護所帯が多い。

こうした所帯でも、保護費から弁済を強要される等の厳しい取立てに追われている。

### 3. 本人又は家族の病気 9人 (15%)

本人や家族の病気が借金のきっかけになっている所帯が少くない。友働き所帯で、夫婦の一方が病気した際に借金をはじめたり、借金返済計画が狂い破綻に至っている。

### 4. 家族、兄弟の同時破産 12人 (20%)

特に、自営業者の場合、自分の借り入れが不可能となり、配偶者や子供、子供の配偶者までを含めてカードを作り借り入れをするケースが多い。当初は債務者が返済しているが、滞納して名義人が返済に当りようになり、さらに返済のための借り入れに走ってしまう。同様に強要されて連帯保証人になっている。

名義貸の件数や金額が少ない場合は調停で処理できるが、夫婦の場合は、破産するしかない状態が多い。

### 5. 借金の期間

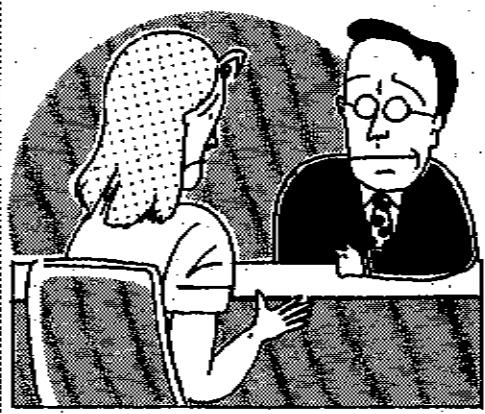
数値はだしていないが、全てのケースで借金をして返済を続けている期間が長い。平均で5年から6年位であり、長いケースでは10年以上に渡っている。返済の義務観念が強く、親兄弟等の「支援」も得て返済を続けている。その結果として、借入件数と借金額が増え、まわりの人に被害を広げることになってしまっている。

# **自己破産—実態を追う**

**— 沖縄タイムス連載 —**

1994年11月8日～12月2日

**自己破産取材班**



複数の金融機関から借  
金を重ねて、返せなくな  
り自己破産する人が県内  
で増えている。県司法書  
士会（國吉真榮会長）の  
まとめでは昨年三百十  
九件で過去最多に達した

## 自己破産

実態を追つ

<1>

況で収入が落ち込んだこと  
とも背景にあるようだ。  
▲増加する自己破産の実態  
を追つた。

## 大半はまじめ 業者も被害者

「昨年末から自己破産  
の相談が急に増え出  
た。十年前からかわっ  
ているがこんなことは初  
めて」。那覇市内に司法  
書士事務所を構える高里  
鶴さん（52）が驚く毎日によ  
うに相談者があり、本島北  
部の離島からの泊まりがけ

## 借金8000万円のケースも

自己破産の申し立て件数  
が今年は四百件を超す勢  
い。親類、友人の保証人  
の普及に加え、長引く不  
切にする沖縄の相互扶助  
が裏目に出て形。手帳は  
借りられるが、ローン  
の普及に加え、長引く不

自己破産といふとキャンプ  
ルや遊興費の使い過ぎで  
不まじめなイメージが根  
宮里さんは言つ。「自  
己破産といふとキャンプ  
ルや遊興費の使い過ぎで  
不まじめなイメージが根  
付いてしまう」と危機感を

強いがそんなことはな  
い。一生懸命に借入を返  
そうとするが高い金利の  
ため払いきれずどうに  
もならないつていう。私  
に言わせれば自己破産す  
る人の大半はまじめな人  
たち。資産能力のない人た  
ちに貸し付ける方にも問  
題があるのではないか」。

那覇市内に住む五十代  
の千八十九件を大幅に上  
回っている。多重債務者  
の激増ぶりは非常事態と  
いっていい」と危機感を  
募らせていく。

一方、県貿易協会は  
自己破産の背景を「ギャ  
ンブルによる生活破たん  
が主な原因だとみる。県  
内で貸金業を営む四百件  
以上払い続けたが借金  
は膨らむばかり。一年前、  
自己破産を申し立てたと  
きは五十八件の金融機関  
から総額八千万円余りの  
借金をしていた。

「自己破産をしたことで  
世話になつた大勢の人  
に迷惑をかけてしまつ  
た。借金取りの厳しい取  
り立てに追い込まれる

になつて責任をとらざれ  
たり、生活費や事業資金  
のねん出で借金が膨らん  
だケースが目立つ。ギャ  
ンブルや遊興費の使い過  
ぎによる「生活破綻型」  
は少なく、人間関係を大

で防ぐ人もいるといふ。

ことばかりだが心は晴  
れないと話した。

県司法書士会の國吉会  
長は「自己破産まではい  
かないでも、消費者を前提  
にした金融機関との調整  
だ。

# 三日破産

実態を追う

<2>

万円を借金したことが発  
しないが、毎月二十万円  
算、離婚寸前まで追い込  
まれる。

平凡で幸せな家庭生

がギリギリの返済計画を  
狂わせる。

「家族に内緒とした借  
金だから、おれおれが

内緒。あとは返済が  
滞り、借金を返すために  
借りたままで、十年間  
利息がたまつた。十年間  
でせりとしなくな  
か一度もないのに…』家

平凡で幸せな家庭生  
がギリギリの返済計画を  
狂わせる。

「家族に内緒とした借  
金だから、おれおれが  
内緒。あとは返済が  
滞り、借金を返すために  
借りたままで、十年間  
利息がたまつた。十年間  
でせりとしなくな  
か一度もないのに…』家

那覇市内に住む金城広  
子(仮名・三十三歳)が  
借金したのは九年前。生  
弱な長男の医療費とちょ  
うどいた洋服の購入に使

万円が始まりだった。病  
弱な長男の医療費とちょ  
うどいた洋服の購入に使

## 10万円が200万円に

### 家庭崩壊の危機に直面

た」と振り返る。  
昨年、自己破産を申し  
立てた時、借金は二百万

円と戻り上がり、取り立て  
する金融機関は九業者にのぼ  
った。利子返済のために夫の  
カードから無断で四十五

円を戻り上げ  
た。夫の妻の姿はまだ硬い。

◆ 大つ違いでトラック運  
転手の造営の「仮名」と  
族に内緒でサラ金に手を



### 主婦の借金の実態

庭崩壊の危機に直面した  
夫の妻の表情はまだ硬い。  
◆ 大つ違いでトラック運  
転手の造営の「仮名」と  
族に内緒でサラ金に手を

が、時々、嫌な顔をされ  
た。それでついつい、家  
族に内緒でサラ金に手を  
出した」

夫の妻までが約一年間腰  
痛め、収入が激減す  
る。少なくなった収入を  
もうたった。月六万円の  
給料で数年間は支払いを  
やめられしながうの返済  
はすぐさま、金融機関から借金返済の  
催促の電話が入る。

(自己破産取材班)

しないが、毎月二十万円  
算、離婚寸前まで追い込  
まれる。

平凡で幸せな家庭生

がギリギリの返済計画を  
狂わせる。

「家族に内緒とした借  
金だから、おれおれが

内緒。あとは返済が  
滞り、借金を返すために  
借りたままで、十年間  
利息がたまつた。十年間  
でせりとしなくな  
か一度もないのに…』家

平凡で幸せな家庭生  
がギリギリの返済計画を  
狂わせる。

「家族に内緒とした借  
金だから、おれおれが  
内緒。あとは返済が  
滞り、借金を返すために  
借りたままで、十年間  
利息がたまつた。十年間  
でせりとしなくな  
か一度もないのに…』家

# 自己破産

実態を追う

<3>

「返済が滞っていました。その夜、帰宅した浩の前で庄子（仮名）は沈黙になりました。「そんなことはないでしょ」。何度も聞き返す浩（仮名）。調べる百分百義のカードから五十万円が下ろされていた。

庄子が子供三人を連れて家を出る。

浩は止めなかつた。「妻への不信心で離婚も真剣に考えた」。そんなとき、庄子と出て行つた三人の子供から済のもとへひんぱんに電話がかかってきて、「まだ、家にいる。父母の気持ちを察して」

◆  
庄子と出て行つた三人の子供から済のもとへひんぱんに電話がかかってきて、「まだ、家にいる。父母の気持ちを察して」では返まらなかつた。自務所に駆け込んだ。そこで、庄子は思い悩んだあげく「自己破産」を決意する。

「お金がないことを知りながら高い利息で貸す

てから、明るいあのまつ子

金がまた膨らんだだけで

バカなことをした」

浩の借金は調停で減額

されたが返済は続いてい

る。「一人でやり直すため

りながらアパートへ転居

てしまう。

「お金がないことを知

りながら高い利息で貸す

小さなアパートへ転居

する。

◆

## 不信感募らせる夫

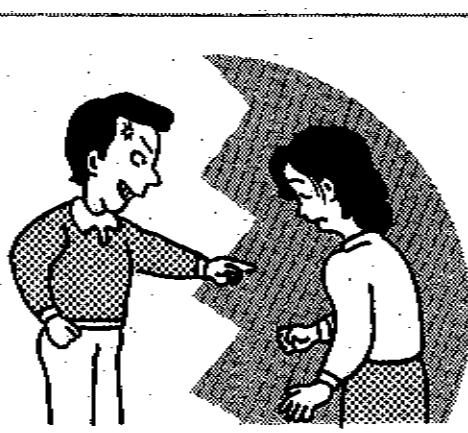
### 調停で減額、生活やり直す

れないと思った。カードを無断で使つたのだからいいわけがない。重い口を開くのにわい。

（金借主）「一百万円余り。月々の支払いは二十六万円。子供五人を抱えて、たたきえまでいいのか」

（庄子）「お金で家庭を壊すこと、が悔しい。貰えるものとが買えないでも家庭で一緒にいよ」と思った。

（浩）「自分の借金でもないのになぜ」。酔々（もんねり）と眠れない日が続いた。会つて言った。「このままで酒が増えた。そんな



サラ金に腹がたち、借のたが生活は苦しい。時々に職場に電話がかかって、金融機関の担当者が金を訪れる。庄子は車もしくなった。だれかに訴えたくて看板を割つて、自分で警察に通報した」良自分が事件を悉くばります」。浩の「あなたせす、看板を弁償すべきが力強く聞こえた。

（自己破産取材班）

# 三日間破産

実態を追う

<4>

浦添市内の料理屋。店を開めた平良洋子(仮名・五十)は一人でほんやり考えていた。「明日の仕入れをどうしよう?」。その日の店の売り上げは借金返済にどうなれてしまつた。財布には千円も

## 亡夫の借金

「一日十八時間は働いた。店の売り上げとパートで月四十万円近くの収入はあるがほとんど借金返済に充てた」

洋子の借金は総額で八千六百

屋へ向かった。

「一日十八時間は働いた。店の売り上げとパートで月四十万円近くの収入はあるがほとんど借金返済に充てた」

洋子の借金は総額で八千六百

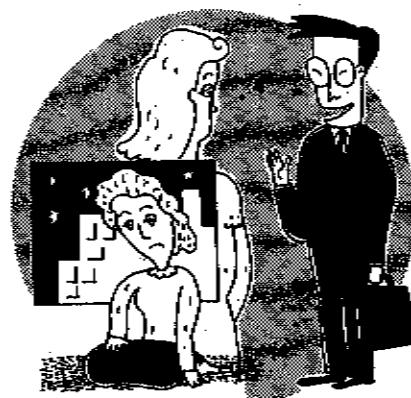
## 40万の収入でも足りず

だらりうらり一日でも早く手渡しの金はない、借り別れたがった。後先考えずに夫の借金をすべて引き受けたことを条件に離婚した。でも、そのとき夫は数年後に病死した。

洋子の借金は総額で八千六百

子には同情があった。苦しい境遇でもぐれることなく素直に育った娘二歳の取り立てが厳しい

「当時は自分でも借錢があるあるのか分からなかつた。自分が貰める



万円余。大半が「くなつた夫の連帯保証になつた肩代わり。「皮肉なもん」で夫は金融業で失敗した。気の弱い人で取り立てできない貸し金もたくさんあつたみたい」

一九八一年、十七年間連れ添つた夫と別れる。それで体を引きずるようになっていて、パートで働いてくる弁当の生活に嫌気がさしたの

スナックは数年で客員が抜かなくななり通じ出され

た。その後も場所を変えておでん屋やそばを金融業するがうまくいかなかつた。

こうした生活でも、洋子は金を貸さなくなつた。昨年の夏、遂に金融業に別れ、借金返済で済んでいった

と頭の中は借金返済のことを意識、次女もしげがり立てが押し掛かる。多

い日で、八人の借金取りたお金がその日のうちに別れ、借金返済で済んでいた

▽

▽

# 三日破産

実態を追う

<5>

トへ転がりこんだ。

数日間、部屋に閉じこもってから、アパート近くのスーパーへ買い物に出たときだった。「平良さん」。突然、呼び止められ、振り返った先には

金融業者の取り立て係が立っている。「あの人が一番苦しかったが、借金だけは返したかった。夫が販売業をしていたこともあって、借金踏み倒された

不安で夜寝のひどいできず、飲めない酒と手を出さず洋子。「頭は錯乱状態明かしたことにもしばし

で、何も考へるひどがで出来たときだった。母の運営保証で来て「母親の運営保証になつてくれ」と頼む金融業者もいた。つたことも一度や二度ではない」。

◆  
不安で夜寝のひどいできず、飲めない酒と手を出さず洋子。「頭は錯乱状態明かしたことにもしばしで、何も考へるひどがで出来たときだった。母の運営保証で来て「母親の運営保証になつてくれ」と頼む金融業者もいた。つたことも一度や二度ではない」。

◆  
不安で夜寝のひどいできず、飲めない酒と手を出さず洋子。「頭は錯乱状態明かしたことにもしばしで、何も考へるひどがで出来たときだった。母の運営保証で来て「母親の運営保証になつてくれ」と頼む金融業者もいた。つたことも一度や二度ではない」。

星佳子(仮名)は二十五歳。那覇市内で会社勤め。二女彰子(同)は二十一歳で、スポーツインストラクター。一人とも自分で就職先を探し、真格もじつた。一度も苦労をかけなかつた娘たちに、母親の

## 息を潜めて暮らす

### 娘のアパートまで取り立て

「どうす」と洋子が腰をかく

◆  
去年冬。厳しい取り立てに追いまくら、娘の部屋の玄関まで渡してしまった。

洋子。「気がついたら、

娘の部屋の玄関まで渡してしまった。

洋子。「気がついたら、娘の部屋の玄関まで渡してしまった。娘のアパートまで来るようになると、留守に見せかけるため、夜でも部屋の電気だけをもぎ、電気料金を消してしまひながら、電話にも出ず息を潛めて暮らした。金融のアパート内にあらわる娘のアパートを潜めて暮らした。金融



◆  
そんなとき、半病人の「借金を勘定するのがよくなつた洋子を彰子がしきる。「ね母さん自己破産してよ。このままではどうしようもなくなってしまう」。娘の真剣な言葉に洋子もつづくしかなかつた。

(自己破産取材班)

# 自己破産

実態を追う

<6>

読める人もいた。

「そんなことをしたら

自己破産を申し立てた  
姉の佳子（仮名）と入  
るのは今年1月。借金の取  
り立てるんだ。

「借金を取り立てる人は  
正直、恐かった。でも、

それでもしなければ母は  
危ながつたと思う」と振  
り返る。

そのぶんか、母親の  
心がついたところから借金  
に追われ、食費にも事欠  
く生活だった。母は一年  
中働きづらめだった。  
せいだくなれせず、十  
年以上も遅滞に奔走した  
ゼロは七けた。総額で八  
千万円を超えていた。物  
心がついたところから借金  
に追われ、食費にも事欠  
く生活だった。母は一年

「などなどなど」。中働きづらめだった。  
あまつた多い母親の借金  
に影子（仮名）は言葉を  
失った。計算書に並んだ  
ゼロは七けた。総額で八  
千万円を超えていた。物  
心がついたところから借金  
に追われ、食費にも事欠  
く生活だった。母は一年

## 払えなかつた給食費

### 母をかばい、元気づける娘

母親が哀れに思えてき  
た。「あれだけ苦労した  
のだからこれからは幸せ  
にならまじ」という

気持ちが影子を  
弾くする。

◆  
亡夫の借金⑩  
自立破産の手  
続の中も、借金  
の取り立てはや  
まない。アペー  
トの玄関に足を  
踏み出さず、今ま  
にしなかつた亡夫のこと  
をしきりに懐かしんでは  
いけない。近くの弁当屋でアル  
バイトしながら、ひつそ  
り生活している。「一人  
でいいのに申し訳ない」と持  
ちになつて涙が出てくる  
ときだらね」と口走る。

「ねどりさんとのじゆくへ  
行きだらね」と口走る。

気弱になつた母親を励  
まして、自己破産の手続  
経過を詳しく聞き取り、  
母親の自己破産に奔走

苦しくて…」。自己破産  
した母は那覇市内で小さ  
なアパートに一人住ま  
い。近くの弁当屋でアル  
バイトしながら、ひつそ  
り生活している。「一人  
でいいのに申し訳ない」と持  
ちになつて涙が出てくる  
ときだらね」と口走る。

経験をしたと割り切つ  
て、「ねどりさんとのじゆくへ  
行きだらね」と口走る。

「ねどりさんとのじゆくへ  
行きだらね」と口走る。

経験をしたと割り切つ  
て、「ねどりさんとのじゆくへ  
行きだらね」と口走る。



験を冒頭としていた今、

母を無視しておかないといけない  
かったという。「一緒に

いる時間がなかったから  
抗うことでもできなか

りたいけど無理かな」と  
思っている。大学に行け  
たり立てるからな

った。借金に追われる生  
活は大変だったけど良い

かったという。「一緒に  
いる時間がなかったから  
抗すことでもできなか  
りたいけど無理かな」と  
思っている。大学に行け  
たり立てるからな

った。借金に追われる生  
活は大変だったけど良い

# 自己破産

実態を追う

<7>

シカケだった。

拾えなくなった友人の

債務を引き受けているう

ちだ、自分の食事経営が

傾き、追いつかなければ

去年、自己破産を申し立

てた時の借金総額は三千

万円を超えていた。

借金は子供にまで及

ぶ。母親の「連帯保証」

で一千万円近く受けた

「ここでも商売を始めて二

年なんだけど、十年以上

も手入れしていないから

すごいボロ家でしょう」

伊波光枝=仮名。

代わりて、生活を支える

ために食堂を始めた。若

いころ、料理屋で働いた

経験を生かし、味は良か

った。明るく、楽しくら

いのうまい光枝の店は繁

盛した。「いつもおね

ねさんでいい感じにして

た」と当時からの常連客

は語る。

一人の子供に恵まれ、

娘も自己破産。長男は數

百万円の借金に追われ、

調停中だ。「友達に義理

立てたのが間違ひのも

の連帯保証を引き受け

たのだ。「普段から世話

になつてらるい」、模合も

からどうしよう

もない……」。

やいた。

借金生活に陥つ

連帯保証

連帯保証

何年も払っていない。大

きさんには迷惑のかけど

うしへ、

腹身がせまい。

でも、自己破産

してお金がない

からどうしよう

もない……」。

やいた。

借金生活に陥つ

たのは十年前。

沖縄本島北部の離島か

ら出て来たのは二十七年

前。病弱で働けない夫に

になったのがキ

た」という。

◆

スナックの経営が行き

詰まつた友人は借金に追

われ、姿を消す。光枝が

取り立てが店に来るよ

うになるのに時間はかか

らなかつた。それから、

金は合せて二百五十万

円。数年間は何とか払

つもりで引き受けた「連

帯保証」の借金を返すた

め、親せきや友人だけで

なく、店の常連客からも

ちょっと借りてもいた。信

じていたし、軽い気持ち

盛り返すうちも落第した。

また、店の常連客からも

借り入れ、借金が膨れあ

がつた。見廻しが甘かつ

たんですね」

◆

店を出すために銀行がり

(自己破産取材班)



# 三日吸産

実態を追う

<8>

店の経営ははかばしか  
くなかつた。伸びない客  
足に光枝(仮名)はあせ  
る。「店の内装を変え  
ば良くなるのではないか」。  
無理して銀行から  
借金するが売り上げは落  
ち込むばかり。気がつけ  
ば高い利息の借金だけが

残つてつた。

「目前のひとだけ考  
えていた。どうかと辞めて

## 膨らんでいく借金

しだいに客足も遠のく

連帯保証

◆  
ればこんなに苦しそむ  
とはながりだと思つ」。  
ため息まじりで話す光枝  
の表情は悔しそうだつ  
た。

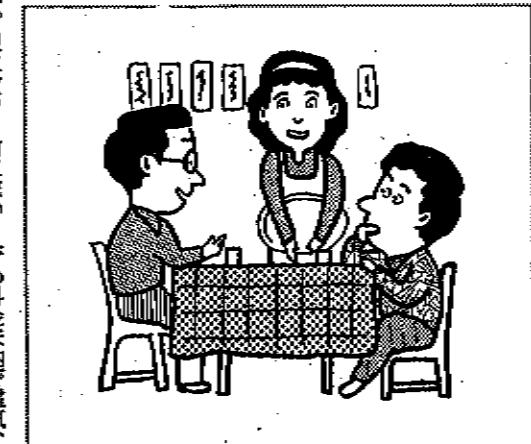
◆  
狭い店内に、  
詰めかねの借金  
の取り立て。怖  
くなつた光枝は娘  
の名義で借金した。  
店の客からも借  
金するものにな  
った。

り立てる厳しき表象である  
と本心も言いつぶれなか  
つたままじりと話す光枝  
なる。食事に来へ、お  
金をひいたれ。そんな店  
のかの客足はますます遠  
き。売り上げは落ちてい  
た。

「自分の借金のせいだ、  
娘が売られる。そり悪う  
い。娘は数ヵ月前に嫁い  
だ。「とても良い人なん  
だ。でも料金未納で靈氣、水  
道を切られる」という。  
「何も考えずに借金した  
私も悪い」。借金取りは  
返済に追われながらもが  
んなりつて。連帯保  
証で借金を負わされたう

つづいた。「後で払つか  
ら。食べた分は払わなく  
ていいからね」。払えない  
くなるにつれて、親せき、  
友人、片端から借りま  
くる。「千円を借りて友人  
の車に相乗りして与那原  
までも行った。頭を下げ  
て借りたくない。そり  
や恥ずかしい。でも、取  
つてみないか」。つられて  
そんな時、娘に金融業  
者の事務所から呼び出  
がかった。「本土に行  
つてみないか」。つられて  
「東京へ行くと言ふ残し  
る毎日だった」

◆  
孝子は会社勤め。借金  
をしてしまった。だから、自  
己破産をしたことで親せ  
き、友人、金融業者に迷  
惑をかけたことが一番つ  
と苦笑した。店の経営  
が傾き始めたといひ。夫は  
妻をかけたことが一番つ  
くとも、娘は娘になら  
い」と顔を曇らせた。  
孝子が出た結果。貧困はな  
事にならなかったが、今



(自己破産取材班)

# 三日吸屋

実態を追つ

<9>

郡内にある司法事務所。奥まった廊下の奥で、涙声が聞こえてくる。「借金が返せなくて…」。県内各地の司法事務所で昨年の秋以来、こんな光景をよく見かけた。

金の背景(京)

苦しきを聞き、泣きながらの方がグッときます。自己破産の手続きにかかるのである司法書士の高橋徳男書士が相談に応じた。

◆ 「女の子は妻女で、小学生一年生。養母をいたわるけむりは姿といひのの悲痛な『告白を弁した。

間違つて二階の窓から飛び降りた」。言葉が途切れ、涙ぐむ。そのたびに励まし、力づける女の子。

「十年前より深刻化した。

借金が膨らんでいく過程も複雑、多様だ。ヤンブルや事業の失敗といふ自己破産型より、生活費補てん型の借金も連帯保証の責任をとられる

話しが多くなるのも、あえて踏み込み質問する。借金した経過をせめぐた。う。ゆるゆるよう話をすと、自分の人生話をすと、長い苦悶を整理せざるを得ないが、やはり普通の主婦、サラリーマンが数百万から数千万円の借金を抱える

「分別のある四、五十代の男性がボロボロ涙をこぼすのです。借金生活の

弱々しい口調で語り出す「水道料金の集金を収めてもういい部屋に入らしくなる借金

が沈静化してしまったときの表情をしてくる。ソファに座り、女性が

「一日だ、四、五人は自己破産についての相談。昨年倍以上で、内容も第一次セカンドショックの

向きあうきっかけだった。あれから十年、法の改正などによって、暴力的な取り立ては影を潜め、行き場のなく思つたたまに座り、女性が

沈静化してしまったばかりの自己破産が今年、急増している。

「どうぞ、お聞かせください。」借金の事情を詳しく聞き

じる高橋さん。相談者が暗い顔の男女が事務所に入らぬもの。そして至るところは想像以上の悲惨な状況です」

## 連帯保証で苦しむ

### 分別ある男性が泣き崩れる



話をすと、自分の人生話をすと、長い苦悶を整理せざるを得ないが、やはり普通の主婦、サラリーマンが数百万から数千万円の借金を抱える

ところ、返せないおじめ

(自己破産取材班)

# 三二〇 收束

実態を辿りつ

<10>

「そこは、ほかな」。しない箸を繰り返す長男。親子が対面するのは言葉を失った。名義欄には長男(二)の名前。借金額は百五十万円。「本当にねまえの借券か。早く帰つて、説明しや」と電話の向こうではっきり

た。

「二年前の出来事だが今でも鮮明に思い出す。私たちにどうて悪夢のようでした」。淡淡とした口調で、長男の舌極が見てとれた。

借金の理由は

ギヤンブル(職場の先輩に誘わ

## ギヤンブルで借金 父親と一緒に返済交渉

「息子の姿を見て、怒る

をした。こんなになった

のも親の責任じゃないで

すか。借りたものは返す

のが当然ですよ」。金融

機関の反応は冷たかっ

た。「本当に厳しい言葉

を聞いた。息子を聞かされましたね。息

子と一緒に頭を下げ、交

渉するしかなかった」

いひん語った。ギヤンブルで折れる。高い利子を法

定利息に戻し、借金の減

日を返済)」である。彼は振り返る。「金融機関が、切れなくなった若者の怒りが家で爆発する。借金返済の苦しみは簡単にはない。親せきの友人に頼みこめたり、長男の借券を治すのなかつた。(四〇破産取扱)



ソボソ語り出す。借金の総額は四百萬円あまり。利用した金融機関は九社だった。一家に近づけず、友人の家を通り歩いた長男の衣服は汚れ、髪もボサボサ。

司法書士に相談して裁判所に破産の申し立て。それから、返済を前提にした調停を進めるため、親子で金融機関を歩き回った。

◆ 貨物車を運転する徹とスナックで働く長男が半分ずつ、負担して月七万円になる。金融機関の若い社員に謝るしかない。父親のそばでがむちもる長男。まだ、間違いを繰り返す

# 三日吸用

実態を追う

<11>

助けられない自分の親の態度に不満がたまっていたようだ。金融機関との厳しい交渉や煩雑な手続きで苦しむ長男。徹は黙つて身守るしかなかつた。

親せきを何人も見てきたという娘がためいき交じりに話す。「暗け事にだけは手を出すなど言つてきたが、こうなつてしまつた。人間は難しい

親せきのことを話題にするときも、「借入の人の返済能力を把握し、過剰な貸付をなくすだけではなく、借りた生活補充のために、借りの自己破産が減らせ

夜、酔つて帰宅した長男が暴れた。家具を台所用品を周囲に投げつけ、外田先から呼び戻された父親の徹（仮名）の前でわめき散らす。「たった一度の借金だつた。そんなに迷惑ないほんを殺

## 「心のどこかに弱さ」

### カードローン普及も原因

姿。あまりの変わらようと、母親はオロオロするばかり。

せばいいだろ」。もの静かでやさしい性格をして長男が初めて見せる

「あれから1年。長男はまじめに働き、借金返済は滞りなく続けてい

る。「取り立てが緊まで来たりして、嫌なことはたくさんあった。親

せきや友人に頼んで早めに支払った方が楽だった。しかし、今にして思えば息子と自分は良い社会勉強をした」と振り返る。

「お金借りたい」と指摘した。

これままで、借りる側が

回かい、貸す側の事情を

と話す。

その一方で、カードロ

追つづく。

⑤ ◆ 「息子の周囲にはギャンブルで借入する友人が数人いて、返せなくなると親が払つてしまつた。そんな中、ギャンブルとのめり込み、身を持ち崩す友人、

肉親や友人の連帯保証、生活費の補てん、ギャンブル。自己破産の背景にはさまざま必要なものがいくつもがき、苦しみながら自己破産する」と話す。司法書士の宮里徳男さんは「自己破産する人一人の普及で借金出す



# 自己破産

実態を追う

<12>

「第三者から見るところ  
で、業者は悪者のような  
感じですね」。消費者  
金融の代表はこう。「実  
際は實じしまった後は  
いつもが悪い。返しても  
わざわざおねがいしない  
だが。しつこいからね」

「わざわざおねがいしない  
だが。しつこいからね」

◆  
取り立てもつらくなります  
よ」と別の業者。

場し、高金利や悪質な取  
り立てが社会問題化し  
た。そのため一九八三年  
に貸金業法が施行され、

二コ闇で取り立てるわ  
けにもいかないでしょう。  
そりゃ人間だから、苦情の  
話は増えたが、苦情の  
生活の厳しさを見て同情  
してしまったこともある。

断えは減っている」とい  
う。参入する業者も多く、過  
度に小遣いを渡したら、  
逆に小遣いを渡したり。

客からの相談も受け  
付けているが、「債務相  
談は増えたが、苦情の  
話は減っている」とい  
う。入り保証人をつけさせた  
当競争気味だった。それ  
だけ業者が増えれば、負  
も貸し付ける。取り立  
てが社会問題化し  
た。そのため一九八三年  
に貸金業法が施行され、

那覇市内のある業者は、

「バブル全盛期は新たに

増えてあるようだ。  
債務者を軟禁状態にして別

の業者から借入をさせた  
り。彼らは多額債務者に

◆

## むしろ弱い立場に

### 取れないと倒産の危機

#### 貸金業者

イメージダウンとなる。業者は約一千。そのうち、威圧行為の禁止や夜間の連絡、訪問禁止など取り扱いが厳しくなった。その立場もわかつてしまい」と砂川直道事務局長は曰く。自己破産したついて「債務者を監督する担当機関断え」調。「ちょっと体が大きいだけで暴力団と間違われて、警察に通報された人もいる。まさに二つの立場を代弁する。

債務者は自己破産すればいいが、業者は廻業ですよ。今はこれが頭を下げて返済をお願いする時代にならうつある」と、業者のがのスケースをみると、依然として悪質な取り立ても目立つている。



◆  
この面があるからどうしよう。  
◆  
債務者も怖い業者から優先的に払いますか  
◆  
「県内でも業者が一極化しつづけています。  
◆  
(自己破産取材班)

# 自己破産

実態を追う

<13>

「業者が債務者の実態を分かつて貸していればこんなに自己破産者は増えない。業者も回収する目的だから、返済能力のない人に貸せるわけはない。多重債務

者は、借りたい一心ではなく債務を正直に申告しかねない。債務だけでも判断するのも難しく

場合は、業者当たり五千万円、年収の一〇%程度をあらわすなど。あるいは顧客の借入状況などを信用情報機関を使って調査することも義務付けられており、カードローンや消費者金融は簡単でスピーディーな融資が売り物。審査にばかり時間をかけているわけだ。しかし、貸さないと商売にならない

大きくても返済する人

もいれば、少額で破産申

請する人もいる。額だけ

で判断するのも難しく

の侵害につながるとし

て、一昨年四月から本

人の同意を求めていた。

れば、その業者の判断が

示されている。窓口での

簡易な審査による無担

保、無保証で貸し付ける

場合も、業者当たり五十

万円、年収の一〇%程度

をあらわすなど。され

ば、手に借金を押しつけてい

しかじ、プライバシー

のではなく、申し込み

に来た客に貸しているわ

けだから。自己破産にな

れば、その業者の判断が

## 額だけで判断できず 借りる側も意識改革を

ないケースが多いです

けれども、

同協会は「実際は調査

わけだから」と本意をも

よ」

機関に入っていない業者

も多め、そこからいくつ

う関係者の指摘に対し、県資金業協会ではこう

い。債務状況を把握する

のにも限界がある」とい

う。それに併組とは複合

貸金業協会では多重債務者に対する貸し付け禁止

のところには複数の業者による複数の借入があるとい

う。そのに併組とは複合

貸金業協会では多重債務者に対する貸し付け禁止

もある。という表に出てくる借金

債務

◆過剰貸し付け防止についてある業者は「債務額が

は、一九八三年

以前は二親等以内の親

◆

◆

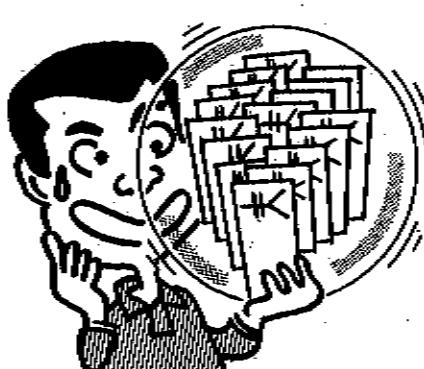
◆

◆

◆

◆

◆



# 自己破産

実態を追う

<14>

「安定期」自己破産します  
書の業者。取材した業者は  
べてがいう。

消費者金融の代表は  
「精いっぱいやつても  
返済が無理なら仕方が

破産が一つの逃げ道になつていいのではない  
か」。

他の業者は「返済不能になれば、これがでも利息を減らしたり、返済期間を延長せよ相談に応じる。それをやらずに借りただけ借りてしまな

いのだから」と語るが、簡単には勧めないと

いう。「もともと自分

の責任でした借金。業者

といったん自己破産するだけ自分で返済するよ

うにした方がいいと思ふ。◆

## 安易に「逃げ道」へ

### 多くの人に迷惑」の自覚を

なって立ち直れるなら と嘆く。  
むしろそうした方がい

#### 被害者意識

「いつも思う」と  
自己破産の効用  
も認める。「しかし債務が増  
えてから、払わ  
ないで済む方法  
を選ぼうといわ  
人が多い。自己  
もつとも悪い段階で相談し

の違法がない限り、できるだけ自分で返済するようとした方がいいと思ふ。◆

情相談所は取り立てなど  
に対する苦情や債務整理  
の方法などについて相談  
を受け付けている。「自己  
破産の手続きを教えて  
ほしい」という問い合わせ  
も多い。業者



ことはできない。破産 そういう人はいつまで  
して数年後、「破産の経 も立ち直れない。また  
歴を消せないか」と業者  
を訪れる人もいるとい  
う。

業者の一人は「多く (自己破産取材班)

上原政勝相談員は「病  
てほしく」と呼びかけて  
いる。

の人に迷惑をかけたと  
いう自覚を持たなければ。なかには自分が

# 自己破産

実態を追う

<15>

「五十万円あればそれで中古車を買うか、さらに借金して高級筆を買おうか。生き方の問題ですよ」と県貸金業者相談室の上原政勝相談員。

「収入に合わない生活を

する人があまりにも多い。それと親せきや友人

の半面、「金利など重債務の原因は生活費補てんは少なく、ギャンブルがほとんど。生活費補てんのきっかけもギャンブルにある例が多い」と言っている。

その半面、「金利など返済期間も確認せずに借りてしまつ。自分でも何方所からいくら借りている

多々、業者だけでなく、借りる方に問題のあるケ

ースも多い。カード社会で

下げる必要もなく、手軽に現金が手に入るんだから」という。

なる遊興費もせいなく

強調する。

同課の大城弘道副参事

県内での自己破産時の

負債額は平均千二百万

円。

全国平均の約六百万

円の二倍以上。同課では

「沖縄の人は手続きを面

## 収入に合わぬ生活

### 「金利、返済期間にも鈍感」

のか分からぬくらい

の保証人になつて債務を負うケース。簡単に保

転人になつている」と嘆かわしい。銀行系クレジット会社をはじめ、信販会社、消費者金融などのクレジット



## 安易な借金

相談に訪れる人の債務の原因はさまざま。生活費補てんや他人への保証がそれぞれ約三〇%、ギャンブルはないか。だれかに頭を

トカードが普及。各社とも広告などで便利さ、利便性などをアピールす

いているほか、年間三百件ほどを目標に業者の立ち入り検査を実施していく。返済期間もその使い方や仕組みをもつと考

になり、消費者もその使い方をもつと考

えなければ。行政だけで

債務整理でも親や親せき

に甘える傾向が強い。沖

縄の県民性が表れている

なく、学校や社会全体で

考える必要がある」と話す。

(自己破産取材班)

# 自己破産

実態を追う

<16>

自己破産や負債の形態  
にも沖縄独特の傾向があ  
るといわれる。  
ある業者は「沖縄の人  
は荷廻も返済を約束して  
も守らない人が多い。延  
滞率の高さは全国一です

## テーゲー主義が災い 失業率の高さも背景に

同部長は県民性の一つ  
よ。その半面、遅れて返  
済する人が多く、貸し倒  
も守らない人が多い。延  
滞率の高さは全国一です

「なりゆき任せのテーゲー  
主義が大きいに關係して  
いると思いますよ。それ  
と失業率、倒産率の高さ  
など社会的背景もある」  
と分析する。

半の女性が多い。生活苦  
つて倒産で沖縄で一位を争っていた大分県  
から高利の模合も貸し倒  
り表を作らない企業が多  
く、各家庭で家計簿をつ  
ける習慣も薄い。所得が  
位と大幅に改善されてい  
る。似たような県民性な  
り入れを繰り返した結  
果、自己破産という例が  
目立つ。その後には離  
婚の倒産、失業などの問  
題が見え隠れしている

つて倒産で沖縄で一位を争っていた大分県  
強力に推し進めている。  
与那覇部長は自己破産  
についても「金銭に關し  
てはテーゲー主義を直し  
ていくなら県民性を変え  
ながら、大きく差をつけら

## 県民性

ではない。ルーズだが、  
悪気はありません。逆  
に本土では延滞  
した場合、貸し  
付けられた金額程度にもかか  
わらず、生活水準は首都  
圏並み、など。社会的背  
景には、いずれも全国一  
といふ。  
県内の自己の倒産率、失業率、離婚  
率などがある。

同調査部が九月に出  
た経済リポートで、「テ  
ーゲー主義」と大分県の  
「カダキイ主義(方言で  
倒れにつながる  
面倒だなどもありたくない  
ないの意)」を参考例に  
県内の倒産防止対策を  
まとめている。

これにも必要。また、倒  
産率や失業率などを減ら  
す施策を講じなければ自  
然・官・学による倒産防止  
対策研究会が発足。県民  
が「自己破産もなかなか減らな  
いのではないか」と指摘  
した。(自己破産取材班)

琉球銀行調  
査部の与那覇隆部長は

自己破産者三十六代後

りポートによると、か

んだ。同県では一村一品



# 自己破産

実態を追う

<17>

「容易に自己破産をする人ばかりいない。過ごしまれ、あがつた」。自己破産してどうにもならない状況で多くの人が自分の状況を理解する。悩みながら、踏み切つている」と語る。

沖縄弁護士会消費者問題委員会の加藤

裕泰議長は「日本にはもともと、消費者が破産するという考え方がない。しかし、消費者が債務を繰り返し、保証人を増やす。破産制度の理解が十分でなく、手続きに足を踏んでいるうちに、債務者も生活できなくなる多債務者に対するため、今年八月、アラウド、借金が膨れあがめられない」と必要ではないか。多債務者が増えている中で、今後は問題対策委員会は、増え続ける多債務者に対応するため、今年八月、アラウド、借金が膨れあがめられない」と必要ではないか。多債務者が増えている中で、今後は

## 膨れ上がる借金

### どこかで見切りが必要

自己破産の手続きは簡単ではない。現行の制度では、借金ができない金財産を充てても、支払いが不可能なときに自ら裁判所に申し立て、財産を債権者に処分する、とある。基本的には「手持ちの財産を売り払って、借金の

保証人に入った親や、友人に迷惑をかけ、社会的な信用も失いつてしま

う。借金をなくすための手段」として、「自己破産の制度を應用し

た。現行の自己破産は、債務者を保護するような法

「自己破産」という言葉を理解する必要性を説く。自己破産によって債務者の財産を失わせるよ



## 法改正

司法書士の宮里徳男さんは

「自己破産をしてしまうと、債務者を保護するような法

が、債務者も生活できず、債務の必要性を認める。自己破産をする」と、債務者の財産を失わせるよ

うに、債務者も生活できず、債務の必要性を認める。自己破産をする」と、債務者の財産を失わせるよ

うに、債務者も生活できず、債務の必要性を認める。自己破産をする」と、債務者の財産を失わせるよ

うに、債務者も生活できず、債務の必要性を認める。自己破産をする」と、債務者の財産を失わせるよ

# 資料

— 新聞報道から —

クレジット・サラ金など

# 多重債務者が急増



多重債務者に適切なアドバイスをするための勉強会が始まるなど、司法書士会の取り組みが本格化—県司法書士会

「事業が苦しくなりサラ金が借りて大變めしているんだ。借金がかき返せなくなった」「カードで気楽に借りて買い物している間に額が大きくなつた」などの相談が多く、複数の金融機関から債権を継続して債務者が膨らんでいくという。国吉会長は「借金が原因で離婚するなど、家庭崩壊するケースも多い。多重債務者の急増が社会問題

県司法書士会（国吉真義会長）が、クレジットやサラ金などで多額の債務を抱え経済できず、その多重債務者の救済に立ち上がりた。多重債務者に適切なアドバイスをするための勉強会を重ねているほか、十月十九日、三十日には「クレジット・サラ金多重債務者相談会」を開く。年々増加の一途をたどる多重債務者の救済に、司法書士会が組織ぐみで取り組むのは全国でもまれだ。

## 県司法書士会 救済へ

借金が返済できずに自己破産を申し立てる人は、県内では年々増加の一途。昨年は三百十九件の申し立てがあり、今年は四百件を超えた（県司法書士会調べ）。  
「事業が苦くなりサラ金が借りて大變めしているんだ。借金がかき返せなくなった」「カードで気楽に借りて買い物している間に額が大きくなつた」などの相談が多く、複数の金融機関から債権を継続して債務者が膨らんでいくという。国吉会長は「借金が原因で離婚するなど、家庭崩壊するケースも多い。多重債務者の急増が社会問題化しつつある。二百十人の会員が取り組めば大きな力になる」と話す。  
同会は十月に開かれる相談会で電話相談も実施しほが、個人面談も実施し、法的な措置などについてアドバイスする。また、毎週火曜日に同会を開設している無料法律相談でも対応していく考え方で、「一人でも儘まことに気軽に相談してほしい」と話している。

# 親せきと借人多重債務者

## 自己破産



県内の自己破産の実態を分析、記者会見で結果を報告する園吉会長(右端)ら県司法書士会のメンバー

### 親せき、知人で かばい合い、借金

親族の親せきが多重債務者を増やし、負債額を膨らませている。沖縄司法書士会(園田真榮会長)が取り扱った自己破産事件の分析から、沖縄独特の実態が明らかになった。自己破産の実態調査は県内で初めてといふ。親せき子供、親せきまでが名義変更カードで借金を重ね、払えなくなるケースが目立っている。裁判所に自己破産を申し立てる件数も増加の一途で、今年はこれまでで最多の四百件を超える勢い。同会では「多重債務者の急増るれば、家族を親せき、友人の支え合いでだけでは対処できない」と心配であつて、「逆にかばいあつてこれが書類を立てている」と指摘。

同会では、ことし取扱機率は、借金した理由は生活費の補充が四八・五九%、出資などと説いていた。資金金三三・一%、ギャンブル一〇%多い額く。多い人で、扶助が裏目に出て、債務者を取り巻く人たちまで連帯責任と訴へ調べた。

県内自己破産の実態を分析、記者会見で結果を報告する園吉会長(右端)ら県司法書士会のメンバー

## 相互扶助の良さが裏目に出る

え、サラ金など七十六件の貸付を貸す人が借りた人も多い。借金額の平均は千二百万円(借り入れ十七件)で、全国平均の四百万円を大きく上回っている。三十代から四十年代の人が多く、七〇%が女性。大半はスナック、アパティック屋敷などの居酒屋経営者だった。自己破産の申し立てでなかわっている司法書士会の宮里樹男さんは、「生活費を補充するため、借りた金が返せず、金利も高めながら次々に借金を重ねて、こうつぶさに最後はどうにもならないくなり、不況で生活が苦しくなるケースがほとんど。カードローンの普及に加え、長引く不況で生活が苦しくなることが背景にある」と分析している。

借金が返せずに裁判所へ自己破産を申し立てる件数も急増。九一年の七十二件が九三年には三百一十九件になつた。今年は那覇地裁だけで十月十七日現在、前年比三〇%急増の百八十八件(同司法書士会調べ)に上る。

園吉会長は「多重債務者の実態をほんとうに把握していない。特に沖縄独特の相互扶助が裏目に出て、債務者を取り巻く人たちまで連帯

貸付をやめられない。貸付してしまったお金は返せない」と述べている。家族を親せきでは支え切れない多重債務者が今後、急増を予想される」と危機感を募らせている。

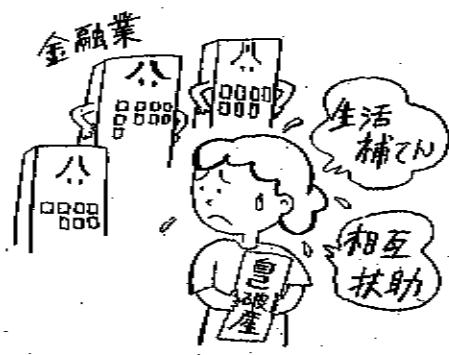
同会では多重債務者の相談に応じるため多重債務者支援会議委員会(前澤正進議員)を結成。今月十九、二十の両日、那覇市と北谷町で相談会を開催する。前澤議員は「一人で相談会を開催してもあまり、気軽に相談してほしい」と話している。

相談会への問い合わせ

# 女性が7割 平均1200万円

## 急増する自己破産

県司法書士会が調査



調査は今年に入って、県内司法書士会自己破産申立てを依頼した個人のケースをまとめたもので経年一交代が四十人で大六名を占めます。

数は五十九件。四十一人が女性で残り十八人が男性。内訳をみると三十代から五十五歳まで抱えた女性の約七十年代も一人いた。一千円以上の巨額の債務を抱える人が二十人もあり、債務の平均額も三万円で、最高は二十九万円。夫の巨額の経営失敗三万円が最も多かった。事業の失敗は三万円が四分の一を占めると、生活費の補てん

の負担まで抱えた女性の約

八千七百万円。平均十七社

から借金し、返済不能とな

った。未成年者の親の借金

を払う急迫な事態がせたり

返済のため売春を強要する

例もあった。

全国平均の破産申立て

額が四百万円とされる中

で、県内が一千万円を越す

巨額となったことにつれて、

県司法書士会は「家族や親類、友人が破産に至るまで債務者を支える状態が

債務の総額を底まさせてい

る」と指摘。費用の支えで

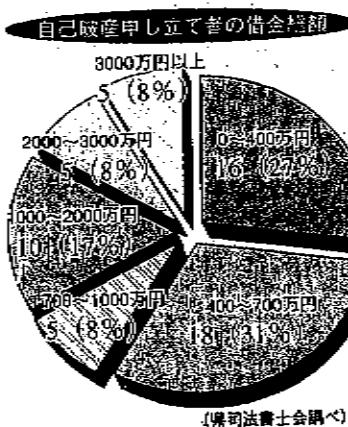
はかばいきれない破産者が

表面化してきており、沖縄

の相互扶助社会を反映し

て、ある「儲かることが予想される」と警鐘を鳴ら

## 大半は生活補てん型



めの小規模アティックやスナックなどの経営失敗が大半だ。保証人・名義貸しが一二%、ギャンブルが六%あった。

調査した事例では、夫婦双方の破産が六組あった。保証人になつた親類に及ぶ例も多い。借金が大きい消費者金融業者からの借り入れが過ぎなくなった人が「借りり返済せよ」と迫られ、高利の日掛け金融業者から借り入れて深まることはまるケースも目立つ、といふ。未成年者の親の借金を払う急迫な事態がせたり返済のため売春を強要する例もあった。

巨額となつたことにつれて、県内が一千万円を越す債務者を支える状態が債務の総額を底まさせている」と指摘。費用の支えではかばいきれない破産者が表面化してきており、沖縄の相互扶助社会を反映して、ある「儲かることが予想される」と警鐘を鳴らす。

# 自己破産の増加を憂慮

債金（債務）を抱える人が自己裁判所へ破産を申し出ることを、自己破産といふ。宣告されると必要最小限の生活費や家財道具を除いて財産が換金され、債権者に分配される。

沖縄県司法書士会がまとめた県内の自己破産の実態調査はいまの世相を垣間見せてくる。多数の金融業者から借

金を重ね、返済不能に陥った多重債務者による自己破産申し立てが急増して

いるといふ。

わが国ではバブル崩壊後の九二年じ

ろからクレジットカードの使い過ぎによく「カード破産」が目立つてゐる。

結局は消費者の自己管理能力の問題に帰着しそうだが、県内の場合は沖縄の美風といわれてきた相互扶助の精神も裏目に出ていたと指摘されている。

県司法書士会では「家族や親類、友

人が破産に至るまで債務者を支え、結果的に負債総額を膨らませて」いるといふ。「持たれ合いで社会」といふ沖縄的風土がしばしば社会的厳しさの欠如につながっているのはこれまでも言わ

れてきた通りだ。

調査によると、自己破産を申し立てた人の七割が女性で、借金額の平均は一

千二百二十万円にも上っている。特に

目をひくのは、一人平均四十七の業者か

ら借り入れていることだ。「債金が借金

を生む」雪だるま式の怖さを知つてお

きたい。

もう一点は一人平均の借入額の多さ

である。破産申し立ての全国平均が四

百万円とされる中で、県内の一千円

超は尋常ではない。これだけ巨額な借

金になる前に何らかの対策が打てない

ものだろうか。気軽に相談できる県司

法書士会、県の貸金業者相談室や沖縄弁護士会が実施している無料法律相談

など大いに活用すべきだ。「債金の話は

はずかしい」などとためらいど、自ら

債金地獄に落ちる。

カード破産では消費欲望に負けて自

分の返済能力を超えて消費してしまつたケースが目立つ。

若い人のカード破産は著えさせられ

る問題だ。社会に出る前にきちんと学

校現場で消費者教育を勉強させるべき

だ。大学では違すぎる。県内の高校で

ももちろん一義的には本人の自己管理

の問題ではあるが、金を貸す側にも問

題がありはしないか。

沖縄弁護士会消費者問題特別委員会

の弁護士は本紙が連載した「多発する

自己破産」で「フルマ達成のため、顧

客の他社への債務や返済能力をきちん

と審査していない。これが全般的な自

己破産急増に直結している」と分析し

ている。

このとおり沖縄固有の傾向として、簡単

に保証人になつたり、名義貸しを交渉

させたり、友人、家族の名義貸しで借

り入れを強要して返済させる例も挙げ

られており。

このとおり沖縄固有の傾向として、簡単

に保証人になつたり、名義貸しを交渉

させたり、友人、家族の名義貸しで借

り入れを強要して返済させる例も挙げ

られており。

若い人のカード破産は著えさせられ

る問題だ。社会に出る前にきちんと学

校現場で消費者教育を勉強させるべき

だ。大学では違すぎる。県内の高校で

ももちろん一義的には本人の自己管理

の問題ではあるが、金を貸す側にも問

時代といわれ  
る中で、力  
も重くない  
生活に  
ば田舎者に  
世の中になつた。種々な  
カードがあるが、一人で  
三十五枚持つてゐるが  
普通の人とか。便利にな  
つたものだ。カードで金  
が借りられるほか買い物  
や旅行、食事などあらゆ  
る所で利用できる。手帳  
に、便利になったのは、  
いが、利用を厭ひ、自  
身はもうよく問題提起  
迷惑をかけるひとにな  
る。最近、カードローン  
やサク金などの額の  
金借り、運送などいわ  
ゆる債務者が急増し  
てゐる。それに伴い、裁  
判所に自己破産を申し立  
てる人が、県内でもうな  
き上位に増えている。県  
民法律士会の調査によると、一  
九九一年に七十二件だつたが、九  
三年には三百十九件に増  
加。今年は四百件を超えた。

## 大弦小弦

じたがうなが、返済  
できなくなじと回債額を  
た理由は生活費の短缺か  
最も多く、次いで事業費

金、ギャンブルの順。年  
齢別では三十四歳が  
多く、七〇%は女性で、  
そのうちの大半はアティ

クやスナックなどの零細  
な経営者だった。事業に  
乗り出したものの、運営  
に因難へ苦労する姿をのぞ  
かせてくる。同会では「生業費も事業資金た  
めに借りた金が戻らなくな  
った」と分析。それも家族  
が多くなりたのがほとん  
ど」と分析。

## 「自己破産」 で無料相談

県司法書士会

支払い不能の借金を抱  
え、自己破産を申請する  
人が県内で急増している間

題を審視し、県司法書士会  
による「多額債務者相談会」  
(前原正進実行委員長)を  
実施する。相談は無料

県司法書士会と前原正進実行委員  
長は「市民に最も最近法律  
事務所として、司法書士  
が多額債務の悩みを真剣に  
受け止め、解決策を示した  
い。気軽に相談に来てほ  
しく」と呼び掛けている。  
電話相談は二十九日午前  
十時から午後四時まで。県  
司法書士会館 098-866-6730 (8)  
3-433-4466 (0980) 446  
1. 面談相談は三十日前  
十時から午後四時。那覇会  
場は那覇市第一のNTTブ  
ラザで、中部会場は北  
谷町上野町1番館

# 深刻な借金地獄

## 多重債務相談会 2日間で194件

示すところ  
県内「自己破産準備」

と言われる調停件数は昨年  
千八十九件だったが今年は  
千四百件を超す勢い。県司

法書士会は「相談会に訪  
れた人は水山の一角で多重債  
務者は今後、大幅に増える」  
とみており、毎週火曜日に

県司法書士会（國吉真榮  
會食）が二十九、三十の両  
日開いた「多重債務者相談  
会」に「借金詐欺」からの  
數々を訴える人たちが殺到  
した。電話、面接による相  
談件数は二日間で百九十四  
件。多額の借金が原因で離  
婚家庭崩壊に追いこまれ、  
どうにもならない状況で相  
談に来たケースがほとんど  
だ。親せき、知人の借金を  
保証した責任を負わされ、  
相談会を継続してこう  
した人たちを数落したい」  
話題の紹介が三二%と  
最も多く、「事業資金のね

と意欲をみせた。  
司法書士会が面接による  
多重債務者の相談会を開く  
のは全国でも初めて。この  
日、那覇市と北谷町の会場  
には相談開始から大勢の  
人が訪れた。

対応したペテラン司法書  
士は「借金の負い目がない、  
人前に出たがらない多重債  
務者がどれだけ多く直接に  
やっているとは…」と驚い  
た。「会場で三十人の司法  
書士が相談に当たり、借金  
額を返済状況などを詳しく  
聞いた。

保証した責任を負わされ、  
化していることを裏付け  
た。相談会を継続してこう  
した人たちを数落したい」

「自己破産準備」  
と謂ふべき「自己破産準備」  
のカードを預け、知らない  
うちに使いこなされた」と  
いったケースも。相談会実行委員会の前堂  
二十代「四〇歳で三十代は二  
一%だった。

「七、八年前に親せきの  
連帯保証で借金したが返せ  
ないうちに金利がかさみ一  
億円以上の借金になった」  
という四十年代の夫婦は四十  
九件の金融機関からの借金を  
重ねていた。

「不景気で夫の会社がつ  
ぶれ、生活費を賄うために  
受け。各ケースに合わせて  
借りたお金がいつの間にか  
膨らんだ」「友人に自分名  
で電話や面接での相談者は  
それぞれの司法書士が引き  
受け。各ケースに合わせて  
返済を前提に金融機関と交  
渉する「調停」や「自己破

産」など沖縄独特の互助精神  
が被書を広げているよう  
だ」と話した。

総額で一億円以上も

開いている県民司法書士生  
活相談センターの態勢を強  
化していく方針。相談セン  
ターへの問い合わせは電話  
098(888)3322。

# 自己破産予備軍が急増



借金苦にあえぐ人の相談が殺到した多重債務相談=30日、那覇市慈恵のNTTプラザで

県司法書士会が実施

## 多重債務相談に260件

150万円の連帯保証が払えず

借金繰り返し  
1億円に

沖縄県司法書士会（國吉真榮会長）は二十九、三十の両日、無料の「クレジット・サラ金多重債務相談」を開いた。電話、面談合わせて延べ二百六十件の相談が殺到した。昨年十一月に県司法書士青年の会が開いた電話相談の百十三件から倍以上に増え、借金返済に窮する「自己破産予備軍」の急増が浮き彫りになった。

相談者は、生活費を補つたり、零細事業の資金繰りのための借金から多重債務

者となった人が大半を占める。一千五百万円の連帯保証が払えず、借金を繰り返し一億二千万円に膨れ上がったケースも。家族、友人など本人以外の借金をめぐって訪れた人も多く、沖縄特有の相互扶助から借金苦に陥る人の多さも印象付けた。

アドバイスされた。

相談者の五一%が女性

で、四九%が男性。借金額

は五百万円以下が五四%、

五百萬円から一千萬円以下

が一四%。一千萬円以上の

多額が二一%と目立った。

自己破産の申し立てなどが

積極的に相談してほしい」と話した。

二十九日は電話相談、三十一日は那覇市のNTTプラザで、北谷町の西工会館で面談相談を受け付けた。電話相談の総件数は百十二件で、三本の電話は繋り合ひ放しの状態だった。百四十八件の相談を受けた面談会場では十三の席を設け、緊急に一席増やすほど、相談者が相次いだ。各相談者の借金額や收入

借り入れをされ、友人が蒸発した女性もいた。國吉会長は「子供をばるかに上回る相談が寄せられ、深刻な実感が裏付けられた。それでも相談者は氷山の一角だろう。もっと早く的確なアドバイスを要していれば、追い込まれずには済んだ人も多い。一人で悩まずに相談してほしい」と話した。

親類の借金千五百万円の連帯保証をきつかけ、四十九業者と個人十五人から借金を繰り返し、一億二千万円の債務を抱える四十四代の夫婦もいた。まだ、助け合いが裏目に出て夫婦と子供二人の四人が返済不能になつた家族や、自分名義のカードを友人に渡して多額の

## 多重債務者の実態

前堂 正進



「母親が支払ひながら、親に責任があるからと書かれて金書を書かされた」「支払うな遅延」「支払えなたの事務所に詰められて定期で金を返す」「支払えないと水戸黄門の時代劇の話ではありません。司法書士事務所に駆け込んでくる借金に追われ続けている者なんの涙ながらの訴えである。

沖縄にねむる山口破産手続きの申立件数は近年驚異的に増大している。一九九一年に七十件だった申し立てが翌年

に三十四件となり、本年は確実に四百件を超えるとみられる。

バブルの崩壊で金融機関が膨大な不良債権を抱え、景況く不況で企業の倒産は相次いでいるが、今日の破産申し立ての急増は個人の経済活動、個人生活もまた深刻な打撃を受けていることの反映でもある。沖縄県司法士会は、島壇町の破産事件はすべて会員研修を強化しつづけ、「この結果をより多くの人に理解してもらうため、県内に多くの破産予備群をつくりたい」と取り組んでいた。

このした取り扱い事例の調査結果から、「安易に構てて困ったの安易に破産する」などの不思議な現象が浮上していった。この問題を一層深刻にしてきたのは、親兄弟や親族、友人などが同情して安易にカーブしてしまったり連帯保証人となるケースが少なかった。

私はお寺に問題なし」と考へてやるのではなく、「多債務相談金」を運営する。三十日には北谷町立会議所で開催される、「多債務相談会」で面接相談会を開催する。多債務で悩む方々がわざわざ来てくれる。詳しく述べ、「多債務相談会」で家族、親族の皆さんのが多く参加されることを評ひかねます。

十八日の新聞広告が沖縄県司法書士会事務局電話0980-780077のところ。沖縄県司法書士会事務局電話0980-780077のところ。沖縄県司法書士会事務局電話0980-780077のところ。

(沖縄県司法書士会事務局)

## 生活費の補充が大半

### 県内に多くの破産予備群

約四百五十五件の業者から

あなたは、沖縄で十七社の会員が運営する「多債務相談会」で、これまで借金を手に出す。これが決まりで、債務者が深刻な問題になると、連絡して返してもらおうが、連絡が取れず、なかなか借入を止められない。これが、この原因で生じる借入の結果が明るくなつた。

私はお寺に問題なし」と考へてやるのではなく、「多債務相談会」で面接相談会を開催する。多債務で悩む方々がわざわざ来てくれる。詳しく述べ、「多債務相談会」で家族、親族の皆さんのが多く参加されることを評ひかねます。

十八日の新聞広告が沖縄県司法書士会事務局電話0980-780077のところ。沖縄県司法書士会事務局電話0980-780077のところ。沖縄県司法書士会事務局電話0980-780077のところ。

傍聴席

「借金に追われても明るみを失はず、懸命に生きる人たちの姿」目頭が熱くなつて…。【司法書士会】  
書士会(國吉真榮会員)が  
十月二十九、三十の両日、  
那覇市と北谷町で開いた  
多重債務者相談会に参加  
した司法書士からこんな  
声が聞かれた。切実な訴  
えに心が動き、冷静では  
いられなかつたそうだ。

「借金に追われても明  
るみを失はず、懸命に生  
きる人たちの姿」目頭が  
熱くなつて…。【司法

書士会(國吉真榮会員)が  
十月二十九、三十の両日、  
那覇市と北谷町で開いた  
多重債務者相談会に参加  
した司法書士からこんな  
声が聞かれた。切実な訴  
えに心が動き、冷静では  
いられなかつたそうだ。

## 借金苦口に胸も熱く

購入で借りた五、六十万円がクチのつき始め。店はうまくいかず、夫とも喧嘩を起した。周囲を気にして母親がオロオロしたその時、寄り添つていた女の子が赤

母子の姿だ。母子の姿だ。  
多重債務者相談会に参加  
した司法書士からこんな  
声が聞かれた。切実な訴  
えに心が動き、冷静では  
いられなかつたそうだ。

購入で借りた五、六十万  
円がクチのつき始め。店  
はうまくいかず、夫とも  
喧嘩を起した。周囲を気に  
して母親がオロオロした  
その時、寄り添つていた女  
の子が赤



母子の姿だ。  
多重債務者相談会に参加  
した司法書士からこんな  
声が聞かれた。切実な訴  
えに心が動き、冷静では  
いられなかつたそうだ。

この日、相談会の会場に若い母親が訪れた。小学校四年の女の子がびつり寄り添つている。母親の借金は約百五十万円。飲食店を経営しようと、コップや食器類の

だとう。それを聞いた司法書士。「明るくはなむに後も、司法書士会には十件の相談があった。國吉会長は「相談内容は深刻で、それで死に生きる母子の姿だ。ドラマが凝縮されています。家族を崩壊させんなどといふ。同司法書士会のまじめも多重債務の救済に取らないために、手つきでミルクを飲ませ、寝じあわす。接せられた相談件数

## たか使い過ぎると怖い

クレジットであり、同会の書士会法書者が多い」と説明。利用のカードの乱用や悪徳商法の職員ら約百四十人に自己被書などによ破産などについて講演し、若年層の「自己破産」が県内でも増加傾向にあるが、県司法書士会は、

## 自己破産が増加

士・親泊恵子さんが生徒、会員のカードの貸し借りはしないの自分自身で利用限度」と言う男性教諭は、「将来、生徒が被書者になる可能性もある。クレジットに

## カードは便利

「社会人の卵

の高校生を対象に、「カードでの買い物はあくまでも一時的な借金の使い方など消費教育をするための講座を開催する。便利だから使いたい過ぎたらする怖さがある」と説いていた。

「自己破産」が県内でも増加傾向にあるが、県司法書士会は、

「社会人の卵」の高校生を対象に、「カードでの買い物はあくまでも一時的な借金の使い方など消費教育をするための講座を開催する。便利だから使いたい過ぎたらする怖さがある」と説いていた。

親泊恵子さんが消費教育

沖縄女子短大付高で



親泊恵子さん

同会は、今月の23日



正しいカードの利用方法を聞く生徒たち  
—沖縄女子短大付属高校

末めどに那覇市内の高校で講座を開きたい方針。市外の高校から依頼があった場合でも柔軟に対応した

で。せば電話098(867)6526、県司法書士会まで。

# かしこい カード の利用を

県司法書士会が高校生対象に講演会



カード地獄などの実例報告に聞き入る那覇商業高校3年生ら=那覇商業高校武道室

## 「将来」が担保に

### 高金利、生活を破壊

サラ金、カード地獄など  
が社会問題となつてゐる  
中、県司法書士会は今春、  
高校を卒業し社会人となる  
高校3年生を対象にカード  
の仕組み、消費者破産などを  
が沖縄での自己破産の実

を内容とした講演会「かしこいカード利用のしかた」を各高校で実施している。九日は那覇商業高校で催され、約二百五十人の生徒らが沖縄での自己破産の実

験、若者を狙う悪徳商法の手法などについて詳しく聞いた。

講師は県司法書士会法律センターの古里徳男所長。古里所長は昨年沖縄で自己破産したのは四百三十件

余、借金平均は千一百万円以上、生活費やスナック・喫茶店の商品代金、名義貸しなどが自己破産した理由だと説明。

自己破産した実例を引き合いで出したが、「カード

で簡単にショッピングができる」というが、結局は将来的

収入が担保として取られる

ということ。だれもが返せ

ると思つて借りている。し

かし、返せなくなり、返済

するためこまちに借りる。年

利三十六%という高金利の借

金は「生活を破壊する」な

どと指摘。「年利三十六%は

五十分田儲のあと一年間で

十八万円もの利子が付くと

いうこと」などがあらためて計画的利用を訴えた。

また、友人、知人とし

がらまで仕方なくカードを

作つた場合は「電話一本で

お金が借りられるなどカ

ードの魔力に傾けてしまっ

た。自分で借りた手

だ」などとささやけカー

ド距離を離くよう強調し

ていた。

講演を聞いた女生徒は「学生でカードを利用しても大丈夫だ」などとささやけカード距離を離くよう強調していた。

「学生でカードを利用しても大丈夫だ」などとささやけカード距離を離くよう強調していた。

「学生でカードを利用しても大丈夫だ」などとささやけカード距離を離くよう強調していた。

「学生でカードを利用しても大丈夫だ」などとささやけカード距離を離くよう強調していた。

「学生でカードを利用しても大丈夫だ」などとささやけカード距離を離くよう強調していた。

「学生でカードを利用しても大丈夫だ」などとささやけカード距離を離くよう強調していた。

「学生でカードを利用しても大丈夫だ」などとささやけカード距離を離くよう強調していた。

「学生でカードを利用しても大丈夫だ」などとささやけカード距離を離くよう強調していた。

「学生でカードを利用しても大丈夫だ」などとささやけカード距離を離くよう強調していた。

「学生でカードを利用しても大丈夫だ」などとささやけカード距離を離くよう強調していた。

# 自己破産 過去最高

県司法書士会

# 申し立て400件突破

借金をかさんで返済できず昨年一年間に、県内で裁判所へ自己破産を申し立てた件数が初めて四百件を突破した。県司法書士会(國吉真榮会長)の調べで分かった。生活費の補てんで始めた借金が失業や家族の病気などにより返せなくなり、自己破産を申し立てるケースが多い、という。同会の又吉清一広報部長は「安易に借金を重ねるケースもあり、消費者教育が必要になっている。今の活動を通じてクレジットカードの使い方と権利を啓発していきたい」と話していた。

## 知りたい「カードの怖さ」



那覇地裁管内(石垣)、平とあたもので、一九九四年十九件を高年に回った。九  
良支部を除く)に寄せられ  
一年未満の件数は四百  
の自己破産の申し立てを計二千九件。近三年の三倍(二  
千九件)。

厳しい現実に追われ、若

む人も多く。

自己破産に詳しい司法書士の宮里義男さんは、県内では長引く不況で倒産する

約六倍の急増ぶりとなり、相続業者が増え、事業主や  
いる。同会が毎週一回開いてる「県民法律相談センター」に寄せられる四〇破

産の相談件数も初めて四百

を超えた。

相談の中では生活費を補充するため借りたカードローンで借金が膨らみ五百万円以上の負債を抱えた二十代の夫婦。土地売却に失敗して利息の返済に困り、二十数件の金融機関から絶縁された夫婦。返済能力を超える借金がありながら、名義を貸された親族、友人への気遣いから、自己破産をさす。

同会では、県内の高校、大学などで講演会などを開き、安易なカードローンの使いすぎを戒めている。

## おわりに

最近、ある債務者が街金融の事務所に連れ込まれ、電話機を突きつけられて別業者に借入申込みをするように迫られた例がある。「返せるか否かで貸すのではない。取り立てる自信があるから貸すのだ」と、ある街金融は強弁する。大蔵省通達に反する悪質な取立ては後を断たない。県の金融課に電話をして行政指導を求める債務者も増えている。行政当局の強力な指導が求められる。特に、悪質日掛業者に対する指導は緊急である。

生活費を切り詰めてでも何とか返済したい、と調停を選択する債務者も増えている。しかし、調停に出てこない業者、出てきても指導に従って利息制限法に基づく計算書を提出しない業者、調停を無視して訴訟を提起する業者も少なくない。反論もあるうが、「調停委員が債務者の肩を持つ」との債務者の失望の声も聞こえる。行政、業界、簡裁当局者の強力な指導が求められる。多数の債務者は、破産よりも可能な支払法を求めている。

沖縄県司法書士会は、相談会に引き続き、那覇市内の高校に卒業予定者を対象とした特設授業を呼びかけている。消費者教育を強力に進めることは必要である。同時に、サラ金業者の過大・過剰な広告、電話一本で金を貸す等の貸付方法、返済能力を無視した過剰貸付等への規制ももっと必要である。業界の自主規制ができないならば・・・・。

多重債務者の問題は、行政の施策の問題をも含め多方面から検討されなければならない。その一歩は、多重債務者の実態を明らかにすることであろう。充分な調査と分析は今後に譲るとして、取り合えず本冊子を発行して関係各機関・団体等の検討と対策をお願いしたい。

参考

◎ 不当取立てに対する苦情申立は？

沖縄県労働商工部経営金融課 貸金係

電話 (098) 866-2343

◎ 多重債務についての相談は？

沖縄県司法書士会無料法律相談センター

電話 (098) 867-3526

毎週火曜日 午後2時から4時

電話で予約して下さい。

◎ 自己破産や調停についての案内冊子は？

「自己破産の案内」 500円

発行 沖縄県司法書士自己破産研究会

注文先 電話 (098) 853-3151

沖縄における

自己破産の実態

1995年2月15日 発行

発行 沖縄県司法書士自己破産研究会

連絡先 (098) 853-3151